



9月議会特集
NO. 2264
2021. 9. 19

編集発行
日本共産党鶴岡市議団
鶴岡市美原町16-5
電話22-3313



無料生活相談所

関 徹
長者町11-26
24-2414
加藤 鉦一
宝徳仲田56
64-3941
菅井 巖
中楯 9 6
33-0534
坂本 昌栄
稻生2-33-47
24-5993
山田 守
宝田1-9-1-31
23-6548
長谷川 剛
日枝坂本43-10
41-9148

市政の流れ、逆戻りさせてはならない

9月議会公共事業の地元発注で、地域経済振興に寄与

鶴岡市議会9月定例会で、共産党市議団を代表して加藤鉦一議員が総括質問を行いました。

皆川治市長、国保税減税を明言

問 国保税は前榎本市政下で平成28年度、1人当たり2万1154円の大幅な値上げがされた。
皆川市長は30年度、合併後初めて、国保税を1人当たり1万104円引き下げした。
昨年12月には、1人当たり5043円の引き下げを提案したが、国保の委員の反対がある。

り、取り下げた。
共産党市議団は今年3月議会に、国保税引下げの条例改正を提案したが、反対多数で否決された。

大手ゼネコン発注から、市内業者へ

問 前榎本市政下での文化会館建設事業は、大手ゼネコン発注で100億円規模に膨ら

令和2年度の決算では、4億1270万円の黒字となり、財源留保額は3年度、22億7千万円もあり、減税すべきだがどうか。

市長 3年度国保税の収納見込みは、想定を1億円以上上回り、引き下げの財源は確保できる。

県納付金の動向を見極め、留保財源が安定的な基金の水準6億円を上回る場合は、改定の検討をする。

ゼネコンに発注した。皆川市長は、地元合意を解決したごみ最終処分場建設の大型事業で、大手ゼネコン発注ではなく、地元企業による建設工事共同企業体(JV)に発注した。公共事業の地元発注の考えを聞きたい。

市長 大荒の最終処分場は総工費が40億円を超える大規模工事であり、浸水処理施設も特殊なものが含まれる。他の自治体は大手業者に発注している事例が多いが、市内業者のJVに発注した。

令和元年度の多目的運動施設や、本庁舎耐震補強工事、3年度先端研F棟の増築工事など大型事業は、市内業者で、JVなど複数の業者が受注できるように配慮した。

地元業者が力を発揮することで、地域経済の振興に寄与できる。



日本共産党鶴岡市議団が「新型コロナ・デルタ株に対し、市民の命を守る緊急提案」を皆川治市長に提出しました。左から、長谷川剛議員・坂本昌栄議員・皆川治市長・加藤鉦一議員・菅井巖議員・山田守議員 (8月27日)

日本共産党市議団 9月議会の議会質問



菅井 巖議員

- ① 空き地、空き家の課題対応
- ② 大山地域の雨水排水対策事業、大山川の流下能力向上対策
- ③ ごみ減量対策



山田 守議員

- ① 要介護者の移送手段
- ② 3小学区の学童施設
- ③ 改築・移設



長谷川剛議員

- ① 洪水ハザードマップ、学童保育の災害対応、内川の浚渫
- ② 小中学校のコロナ対策と、校則見直し
- ③ 子ども食堂、里親制度



坂本昌栄議員

- ① ひきこもり支援
- ② 国保会計における繰越金処理
- ③ 無料低額診療対象者の薬代



加藤 鉦一議員

- ① 地域振興基金の活用
- ② 農道の舗装整備

旧町村の権限と財源、さらに改善

問 前榎本市政下で、旧町村の独自サービスの廃止と負担増、職員削減で旧町村の行政力が大きく低下した。それを解決するため、皆川市長は地域まちづくり未来基金を創設した。旧町村に対する地域振興予算は、2400万円から一気に2億円台になった。この流れを逆戻りさせてはならないが、市長 公約に旧町村の権限と財源の移譲を掲げたが、さらに必要な改善や取り組みを進める。

非核平和、次の世代に継承

問 核兵器廃絶と平和都市宣言の実行は。市長 本年1月の核兵器禁止条約の発効、鶴岡市平和都市宣言10周年を迎え、平和と文化の構築は私たちの責任だという重みが増している。8月9日の「鶴岡市平和と都市宣言」に基づき、今後も戦争の惨禍を二度と繰り返さない、平和の大切さを訴えていく。

憲法と地方自治の立場に立つ

問 皆川市長はこの4年間、議会の行政チ

ェックというより、政争の具にした攻撃的な質問によく耐えてきたと思う。対話を重視する市長の考えを聞きたい。

市長 住民に最も身近な市町村行政に、政党間の争いを持ち込む必要はない。

市議会においても互いに敬意を払い、できるだけ歩み寄って合意に努力し、市政を前進させることが重要だ。

問 新型コロナウイルスで、行き過ぎた自然環境破壊、公衆衛生と医療の崩壊、非正規など不安定な雇用の破壊、税の不正、貧困と格差の拡大など、新自由主義の破綻は誰の目にも明らかだ。

新自由主義の政権与党の立場に立つのか、それとも憲法と地方自治の立場に立つのか。

市長 私は日本国憲法の精神に則り、地方自治と市政の発展のために努力してきた。

誰一人取り残さないSDGsの考え方を取り入れ、まちづくりを進めていく。

批判の声受け止め、SDGs目指す

問 市長批判の声も聞く。ダンテの神曲に「なんじの道を進め、人々をして言うにまかせよ」という有名な言葉があるが、市長 様々な意見をまとめていくのは非常に難しい仕事であるが、批判する声や反対する声も受け止めていく。SDGs未来都市として、多様性が発揮される鶴岡市を目指していきたい。